平塚市博物館 全３回連続講座　参加者募集！

プラネタリウムの現在進行形
ドーム映像を味わおう

最新のデジタル表現技術である〈ドーム映像〉の魅力を、現場で活躍する講師の話と映像で体感しましょう。

第１回　１月 11 日（土）15:30～16:45
まずは感じてみようドーム映像の魅力
講師：鳫 宏道 氏（ｶﾞﾝﾋﾛﾐﾁ：元平塚市博物館長、国際科学映像祭実行委員）

第２回　１月 19 日（日）15:30～16:45
ドーム空間で描く科学映像の新視点～HAYABUSA で描きたかったこと
講師：上坂浩光 氏（ｺｳｻｶﾋﾛﾐﾂ：映画監督、フルドーム CG クリエイター、有限会社ライブ代表取締役）

第３回　２月２日（日）15:30～16:45
アートとしてのドーム空間～没入感が生み出す時間と身体
講師：飯田将茂 氏（ｲｲﾀﾞ ﾏｻｼｹﾞ：映像作家）

★申込方法
メール(muse-event@city.hiratsuka.kanagawa.jp)か、往復ハガキに行事名・氏名・学年・住所・電話番号を記入して申込み。応募者多数の場合は抽選。
※個別回でのお申し込みはできません。

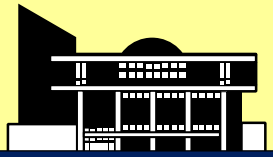
★締切日　**令和元年 12 月 17 日(火)**
当日消印有効（メールの場合は同日中）

定員４０名

対象：中学生から一般

参加費：600 円（各回毎に 200 円徴収）
18 歳未満 65 歳以上無料（65 歳以上の方は年齢のわかるものをご用意ください）

博物館プラネタリウムのプロジェクターが新しくなって、映像がいっそうクリアになりました！



平塚市博物館
〒254-0041 神奈川県平塚市浅間町 12-41　TEL0463-33-5111　http://www.hirahaku.jp

平塚市博物館　全３回連続講座

２０１９年１１月から、プラネタリウムのプロジェクターが４Ｋレーザーになって、
映像がいっそう明るくクリアになりました！

プラネタリウムの現在進行形

ドーム映像を味わおう

プラネタリウムは２０世紀初め、ドイツに誕生した光学機器です。現在では、デジタル技術の登場により、その投影において様々な実験的な試みが行われ始めています。そのため近年、プラネタリウムのドーム空間は、新たな空間体験の場として《ドームシアター》とも呼ばれるようになっています。

進化する《ドーム映像》の大きな魅力と可能性は、視野のすべて（３６０度）がスクリーンとなることで、見る者に圧倒的な「没入感」を引き起こし「体感型」の理解を促すことです。たとえば、祭や演劇・舞踊などの「臨場感」を記録する媒体として、また天文や物理、数学など抽象的な世界を理解する仲介として、そしてまた純粋に、新しい視覚体験を探るアート創造の場としてなど、その映像表現は、様々な方向へ広がり展開し始めています。

この講座では、現場で活躍する３名の講師によるレクチャーと映像で、最新のデジタル表現技術である《ドーム映像》の魅力を体感していただきます。２０１９年１１月より、４Ｋレーザープロジェクターにバージョンアップし、より明るくクリアな映像となった平塚市博物館プラネタリウムの新しい試みを、どうぞお楽しみください。

第１回　１月１１日（土）

がん　ひろみち
鳫　宏道　氏
元平塚市博物館長、国際科学映像祭実行委員

【講師プロフィール】1953 年生。1976 年から平塚市博物館に学芸員勤務。プラネタリウム投影機の操作調整からナレーションまでこなす。日本でいち早くプラネタリウム映像に CG を採り入れるなど工夫をこらし、幼児から高齢者まで幅広い層に向けて天文知識の普及に努める。ドーム映像についても早くから注目し、プラネタリウムの可能性を拡げる試みを展開している。国際科学映像祭実行委員長を経て、現在、日本プラネタリウム協議会監事。

第２回　１月１９日（日）

こうさか　ひろみつ
上坂　浩光　氏
映画監督、フルドーム CG クリエイター、
有限会社ライブ代表取締役

【講師プロフィール】1960 年生。2009 年、惑星探査機はやぶさの地球帰還を扱った全天周ＣＧ映画〈HAYABUSA -BACK TO THE EARTH-〉を監督（第 52 回科学技術映像祭・文部科学大臣賞、映文連アワード 2011 最優秀作品賞を受賞）。その後も科学的視点に基づく作品を手がけ、ドーム空間における映像表現の可能性を追究している。その作風は、時空間を自在に操り見る人を異次元空間に誘う魅力をもつ。2020 年 3 月はやぶさ３部作の完結編〈HAYABUSA ２～REBORN〉をリリース予定。

第３回　２月２日（日）

いいだ　まさしげ
飯田　将茂　氏
映像作家

【講師プロフィール】1985 年生。2014 年の〈Fermentation〉より（作品はドイツの Fulldome Festival の短編で特別賞、ポルトガルの Immersive Film Festival の短編 Best of IFF'15 を受賞）、踊りのドーム映像化に取り組み、以降「アートの文脈の中で、身体がテーマのドーム映像をいかに位置づけていくか」を意識して制作を展開。2019 年の新作〈HIRUKO〉では舞踏家・最上和子とコラボレーションを行った（米 Macon Film Festival で長編フルドーム最高賞受賞）。伝統芸能である能の世界観にも興味を寄せている。現在、玉川大学非常勤講師。